

経済・金融 フラッシュ

ユーロ圏失業率(2020年12月) —底堅いが改善傾向には変化の兆しも

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

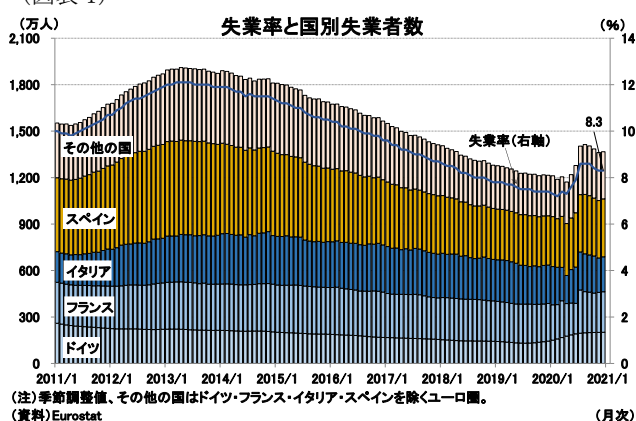
1. 結果の概要:12月は横ばい

2月1日、欧州委員会統計局(Eurostat)はユーロ圏の失業率を公表し、結果は以下の通りとなった。

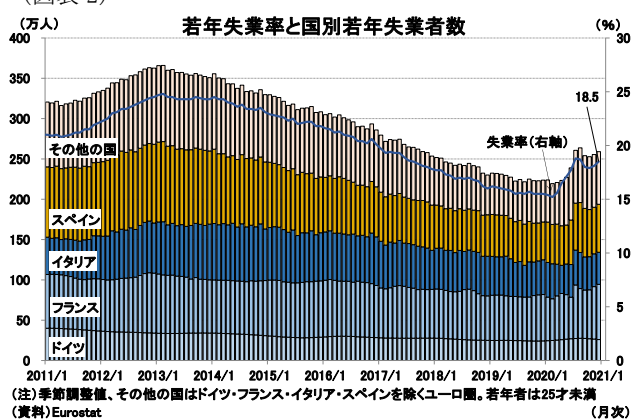
【ユーロ圏19か国失業率(2020年12月、季節調整値)】

- ・失業率は8.3%、市場予想¹(8.3%)と同じで、前月(8.3%)から横ばいとなった(図表1)
- ・失業者は1360.9万人となり、前月(1378.1万人)から17.2万人減少した

(図表1)



(図表2)



2. 結果の詳細:改善傾向に変化の兆し

ユーロ圏の失業率は7月をピーク(8.7%)に4か月連続で低下していたが、12月は8.3%となり、11月(8.3%)から変わらなかった。市場予想も横ばい(8.3%)が予想されていた。

一方、12月の若年失業率については18.5%と、11月(18.1%)から悪化し、2か月連続の上昇となった(図表2)。ただし、若年失業率も7月のピーク(18.8%)よりは低い状況にとどまる。

また、10月以前のデータの改定幅は全体の失業率は小幅な改定となったが、若年失業率の11月のデータは18.4%から18.1%に0.3%ポイントの改善されている。

コロナ禍における景気後退の雇用状況を見ると、昨年4月に一気に失業者が増加した後、その後は改善傾向が続いており、世界金融危機時の長期にわたる失業者増とは異なる状況にある(図表3)

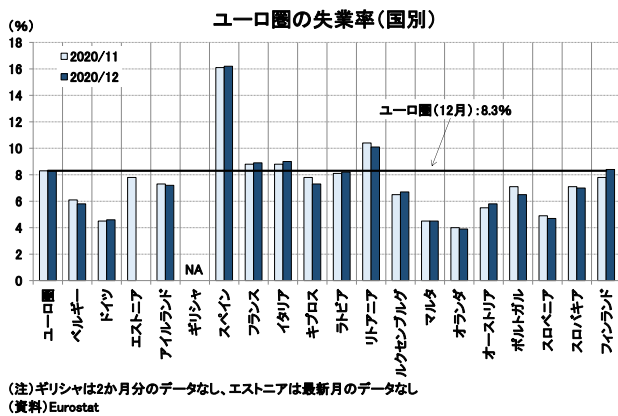
¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

が、12月は失業者が増加に転じている。

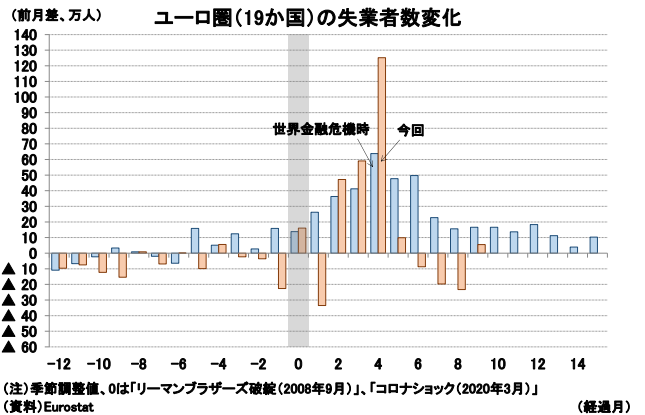
次に、国別に12月の失業率の変化を見ると、データが公表されている17か国中、8か国で失業率悪化、8か国で失業率改善となっており（残りは横ばい）、国によりバラツキがある。大国ではドイツ・フランス・スペインがそれぞれ0.1%ポイントの悪化、イタリアが0.2%ポイントの悪化だった。一方、改善が目立つ国としては、ポルトガルが0.6%ポイントと改善幅が大きい（図表4）。

若年層失業率では、9か国で悪化、4か国で改善しており、フランスは1.3%ポイントの悪化、スペインで0.7%ポイントの悪化と両国の悪化幅が比較的大きかった（図表5）。

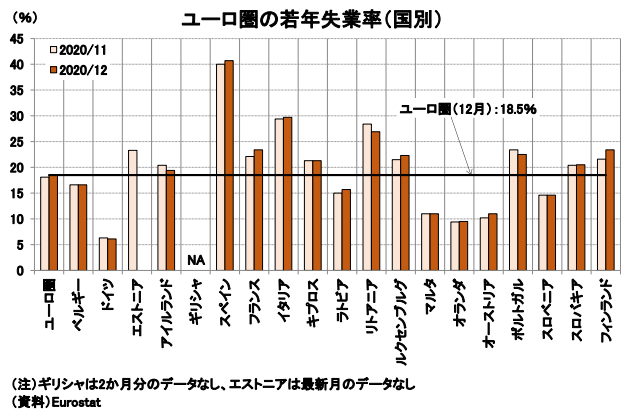
（図表4）



（図表3）



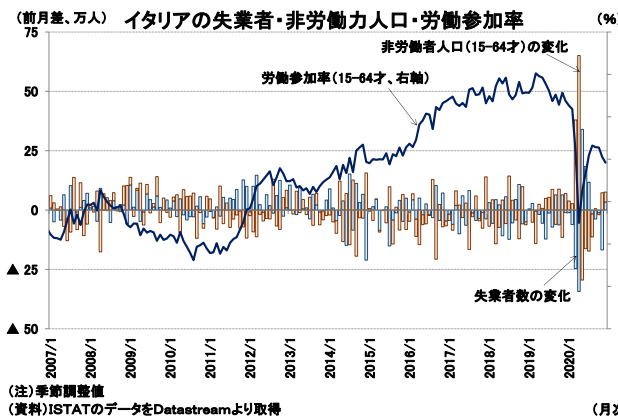
（図表5）



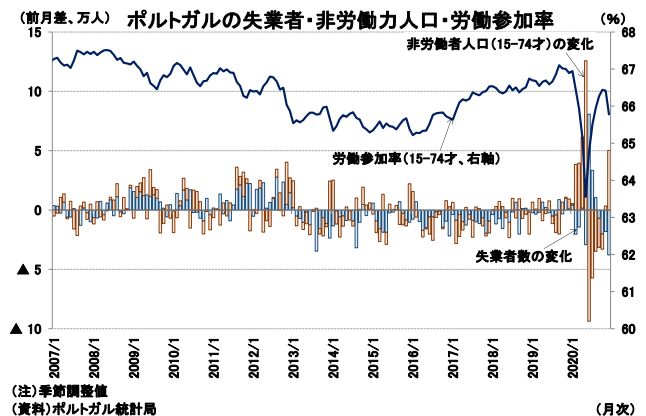
詳細な月次データを公表しているイタリアとポルトガルについて確認すると、各国の公表値では、12月の雇用者数がいずれも前月から減少している。ポルトガルでは失業者数も減少しており、上述の通り失業率も改善しているが、労働参加率が再び悪化しているため、雇用環境が改善していると言い切れない面がある。イタリアの労働参加率も12月は大きく低下している（図表6・7）。

各国では11月以降に行動制限の再強化に踏み切っている。11月時点の雇用データは底堅さを見せたが、12月のデータからは改善基調に変化の兆しも見られる。行動制限が長期化すれば、今後の雇用環境がいつそう深刻化する可能性があり、先行きは予断を許さない状況と言える。

（図表6）



（図表7）



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。